

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるよう!

私たちは地域・職域・学校など、
生活のいろいろな場面で
「健康寿命」をのばす運動を
実践しています。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

(平成8年5月20日第三種郵便物認可)

2005(平成17)年3月15日 第385号

(財)東京都予防医学協会
(財)予防医学事業中央会東京都支部
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭
発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1の2
保健会館 電話03(3269)1131
http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行 年間購読料300円(1部30円)

第12回 「東京から肺がんをなくす会」学術講演会

「なくす会」の成績や、CT検査の有効性評価研究の成果などが報告

わが国の死因の第1位であるがん、なかでも肺がんは男性のがん死亡の第1位、女性でも胃がんに次ぐ第2位を占めており、その対策が急がれている。こうしたなか、3月1日、都内のホテルで開かれた第12回「東京から肺がんをなくす会」学術講演会では、「なくす会」の成績や国立がんセンターがん予防・検診研究センターの活動、厚生労働省研究班の肺がんCT検査の有効性評価などが報告された(写真)。学術講演会には、「なくす会」の検診を指導している肺がん専門医や放射線医学・光工学の専門家、企業や健保組合関係者、医療ジャーナリストら約150人が参加し、活発な交流や情報交換が行われ、盛会となった。



今回の学術講演会では、センター東病院通院治療センター院長が「東京から肺がんをなくす会の成績」と題して、はじめに大松伸国立がんセンターが「東京から肺がんをなくす会の成績」と題して、1975年の発足以来「なくす会」が世界に先駆けて行ってきた検診の方法やCT画像の読影方法の変遷、検診結果などを示し、その実績を報告した(関連記事2面)。

続いて、森山紀之国立がんセンターがん予防・検診研究センター所長が、昨年2月にがん検診方法の開発とがん予防対策に取り組みで開設された同センターのがん検診について、「がん予防・検診研究センターの現状と展望」と題して報告を行った。森山所長は、まず「予防・検診センターのがん検診は、精度の高い検診によって、どの程度までがん発見が可能かを明らかにすることを目指している」と述べ、検査受診者の条件や各領域の検査内容、フォローアップシステム、料金設定などを紹介した。

また、「この1年間に3822件の検診を行い、そのうち130例(3.4%)にがんを発見した」として、その成果を示したうえで、消化管・肺・乳房などの各領域におけるそれぞれの検査法の長所と短所、コスト・ベネフィットなどについて解説を行った。

このうち、肺がんについては、「なくす会」のデータを基に、CT・喀痰細胞診・胸部X線による検診のがん発見数の比較を示し、「単純X線の有効性はある程度証明されているが十分とは言えない。CT検査の導入が求められており、その有効性評価が待たれている」とした。

いっぽう近年注目されているPETについては、「PET検査と他の複数の検査を行った92例のうち、PETのみが、がんを発見できたのは10例であり、その多くは悪性リンパ腫など検査対象外のがんであった」として、「PETの有効性についてはさらなる検討が必要である」と述べた。

最後に演壇に立った鈴木隆一郎大阪府立成人病センター研究所特別研究員は、厚生労働省の「これからの肺がん検診手法の確立に関する研究」班の主任研究者という立場から、研究班が行っている肺がん検診の有効性評価のうち、このほど示された「男性では通常検診に比べてCT検査で18%の肺がん死亡リスク減少が示唆された」とする研究成果について報告を行った。

また、その後の懇親会では、「東京から肺がんをなくす会」の生みの親であり指導者である末舛恵一国立がんセンター名誉総長や、成毛昭夫同センター中央病院副院長があいさつに立ち、「なくす会」の30年間のあゆみを披露するともに、さらなる発展への期待を語った。懇親会にはさまざまな分野の専門家をはじめ、本会関係者らが参加し、和気あいあいの交流が行われた。

第39回 予防医学技術研究集会在開催

「新たな予防医学技術の向上をめざして」をテーマに、平成16年度第39回予防医学技術研究集会在が2月17、18日の2日間にわたって香川県高松市のサンポートホール高松で開催された。研究集会には、本会など予防医学事業中央会の35都府県37支部の検査技術担当者や関係者約140名が参加した。

今年度の研究集会では小児保健、健康診断、がん検診、臨床化学・免疫、環境検査、骨密度検診、健診事後指導の7部門45題の研究発表が行われた。

「新たな予防医学技術の向上をめざして」をテーマに、平成16年度第39回予防医学技術研究集会在が2月17、18日の2日間にわたって香川県高松市のサンポートホール高松で開催された。研究集会には、本会など予防医学事業中央会の35都府県37支部の検査技術担当者や関係者約140名が参加した。

特別講演「老化は血管から」では、香川県立保健医療大学の高原一朗副学長が代表的な生活習慣病(肥満、高脂血症、高血圧、糖尿病)の発生機序から、これらが動脈硬化化する血管の老化にどのように関わっているかを概説し、その予防の重要性について述べた。

ミニシンポジウム(座長・石田頼光鹿児島県民総合保健センター臨床検査課長)では、広範囲にわたって使用されている超音波検査を中央会支部における検診・検査という立場から、「DICOM規格のファイリングシステムを用いた腹部超音波検診について」(茨城)、「腹部超音波検査より得られた婦人科疾患に関する検診(宮城)」、「腹部超音波検査における経管径の経時的変化に関する検診(岩手)」、「P/S比とW/H比の相関性について」(新潟)の各氏から各支部の現状報告が行われた。その後、個人情報保護法の全面施行に伴う職員への罰則規定の事例についての質問をはじめ、個人情報保護法施行後の健診データの報告や健診現場でのプライバシー保護職員のスキルアップやモチベーションを高めるための取り組み方についてフロアを交えた活発な討議がなされた。

今月の主な紙面

- 1面 第12回「東京から肺がんをなくす会」学術講演会
第39回予防医学技術研究集会在開催
- 2面 「東京から肺がんをなくす会」29年間の成績
連載「いいびき」よもやま話」第6回
- 3面 連載「健康教育放浪記」最終回
健康づくり・健康増進を支援するページ 最終回
- 4面 第10回健康づくり懇話会例会が開催
腎臓・糖尿病検診打ち合せ会開く・本会
多摩市教委が小児生活習慣病予防健診の
事後相談会を実施
産業保健フォーラム IN TOKYO 2005が開催
お知らせ

個人情報取扱いについて

日ごろより、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。

これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。そのうえで今後も継続して送らせていただきたいと考えております。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話03-3269-1131)までご連絡ください。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

お問い合わせ・ご相談は 予約制)
電話 東京(03)3269-1131

健康管理コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1の2
(財)東京都予防医学協会

コンサルテーションのご案内

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 4月 6日 三輪祐一(東京都予防医学協会総合健診部長) | 5月 4日 祝日のため休み |
| 13日 岡 惺治(健康管理コンサルタント) | 11日 岡 惺治 |
| 20日 三輪祐一 | 18日 三輪祐一 |
| 27日 岡 惺治 | 25日 第201回ヘルスケア研修会につき休み |